

114 東京法学院秋季大運動会の光景

〔『法学新報』第一〇四号 明治三十二年十一月二十日〕

○東京法学院秋季大運動会の光景

花散り緑消え梢頭転た寂寞を覚ゆるの時、月は明かに風は清く虫啼て猩血葉を染む、豈に徒らに二月の花をのみ羨むことを為さんや、墨堤の観桜素より艷麗に肥ゆ然りと雖も飛鳥山辺の楓葉何んぞ瀟酒に腹せんや、吾か法学院は去歲艷麗の桜花に戯むれて、今復た瀟酒の紅葉に遊ぶ、寔に克く其時を視其地を察する者と謂ふ可し

運動会を催せと云へる声か、各級の間に喧伝唾唱せられて、力院長に感じ幹事を動かし、茲に拾一日を卜し、紅葉散るてふ飛鳥山頭に、秋季大運動会を催すとの決定は躍る許りの大筆を以て、障子大の標札に依て示され、各級の委員は大約一週間は日夜勤学の隙を偷んで、而して当日の、諸般の順備に拘々焉たりしか、漸く十八日午後十一時を以て、其終了を告ぐ、危ふみたる当日十九日は、幸にも天晴れ風和かに、宛然たる小春の氣、此山を包み彼の野に延び、天公も亦た暗に斯会の盛を助くるもの、如し場は長方形に縄張りを以て其範圍を限り、運動員と看

客の紛交を防ぎ、場の中央には東京法学院と大書せる校旗を翻へし、之れか竿頭より四方八面に細繩を引ひて、各国の旗章を吊す、会員入口の右方には会員の控所を設け、右方には湯茶賄所を備へ、音楽隊の天幕と賞品陳列所の天幕との中央には、講師院友控所を構へ、委員控所と事務員控所とは相並んで之を按排す、其他の準備も、午前第八時の頃ひを以て全然整頓を見る、会員の区別は先例に倣ひ、紅白帽を冠むるものを普通会員とし、紫白帽を載き別に胸間に紅色の徽章を挿むものを委員長と委員定め事務員は単に黄色の徽章を用ふるに止む、会員総数は幾何ぞ、算して五百余名を得たり其紅白の頭と紫白の頭とか交々相錯はりたる、恰も精甲日に耀くの慨あり、午前第九時の刻に及んで、唳々たる音楽の合奏湧き、之を合図として所定の遊戯は催されぬ今其順序を挙げれば、第一号鐘（二百ヤード競走）第二号鐘（跛行競走）第三号鐘（四百ヤード競走）第四号鐘（盲目球拾）第五号鐘（提灯競走）第六号鐘（障害物競走）第七号鐘（載囊スプーンレース）正午十二時一先休憩会員一同に昼飯を供す午後一時更に開会第八号鐘（二百ヤード撰手競走）第九号鐘（載囊スプーンレース撰手競走）第十号鐘（四百ヤード撰手競走）第十一号鐘（提灯選手競走）第十二号鐘（障害物選手競走）第十三号鐘（講師院友提灯競走）第十四号鐘（院友及委員四百ヤード競走）第十五号鐘（八百ヤード競走）第十六号鐘（隱会）第十七号鐘（合同綱引）を催ほし、右了て委員長は親しく賞品を授与せられ、尚ほ委員長の主唱を以て両陛下万歳皇太子殿下万歳、法学院万歳を三呼す、夫れより酒宴に移り、快

飲を尽して散会せんとするの頃は夕陽斜に丹碧淺深綺兮繡錯の松楓を射て、暮鴉数点を天の一方に認むるの時なりき、杜牧之詩あり「停レ車坐愛楓林晚、霜葉紅ニ於二月花」と、我法学院生徒諸君は此清爽の境に此の杜牧を演し、樽酒万解を傾けて一人の乱行を見ざるは遠望大志の士人行として素よりさる事にはあれ、年々毎会体に始まりて礼に終はるもの都下運動会の儀範として些の耻づるなきを確保せずんはあらず、余は実に午前と午後とに跨れる演技に於て一番は一番より、士氣昂り暗啞叱吃の声谷に振ひ天に聳びすしかりし時に於て、窃かに宴会の結果を氣遣ひたりしは、余が兄等に対して過慮の愚を叩謝せざるを得ず、嗚呼人の歡樂は物夫れ自身に非ずして之を受用する者の心如何にありとは真に至言たるを悟れり余は今此稿を脱せんとするに際し、幾多の講師院友諸賢の遙かに来て斯会に投せられ、此挙をして愈壮大ならしめたるの点は、更に深く其厚情を感謝せずんはあらず

委員長 法学博士 金井延氏

委員 石塚喜一氏 飯島改之助氏 中野裕氏 岡部清彦氏

小澤善介氏 岡野同氏

小畑鐵五郎氏 渡邊義雄氏 法有孚氏 野本古氏 久

保田良行氏 山本官市氏 山田芳彦氏 國分義一氏

小馬場豊吉氏 江波戸龜二氏 佐野貞三氏 佐藤岩次

郎氏 宮崎三郎氏 清水長藏氏 廣森保藏氏 森川源

吾氏 (イロハ順)

受勝者左の通

二百ヤード競走 (生徒) 一等賞 神谷氏 二等賞 戸塚氏 三等賞 中西氏

載囊スプーンレース (同) 一等賞 市野氏 二等賞 宮城氏 三等賞 馬場氏

四百ヤード競走 (同) 一等賞 佐藤氏 二等賞 高橋氏 三等賞 鶴田氏

提灯競走 (同) 一等賞 高田氏 二等賞 原氏

障害物競走 (同) 一等賞 田坂氏 二等賞 高田氏 三等賞 後藤氏

提灯競走 (講師院友) 一等賞 花井氏 二等賞 三島氏 三等賞 児玉氏

四百ヤード競走 (院友委員) 一等賞 川瀬氏 二等賞 飯島氏 三等賞 田分氏

八百ヤード競走 (生徒) 一等賞 田中氏 二等賞 田坂氏 三等賞 高田氏 四等賞 荒氏 五等賞 篠崎氏

隠会 (同) 一等賞 松坂氏 二等賞 渡邊氏

(久保田良行記)